



遠 3
2.378
4

畧解孝經 六樹園先生著 ひろかる付かろちかへ 再板

職人盡狂歌合 六樹園大人判 全二冊

けあの方こそをたあふこつちてその方の
しあををたあふこつちてその方の
てあををたあふこつちてその方の
をたあふこつちてその方の
あををたあふこつちてその方の
まあをたあふこつちてその方の

狂歌評判記 同 大人評 小本全一冊

けあハ能優の評判記おあふこつちて評判
をたあふこつちて評判

俳諧饒舌録 元空阿弥翁著 全二冊

けあ五代の阿弥翁の和歌を後世にたあふこつちて
をたあふこつちて人々のあふこつちて
世のあふこつちてあふこつちて
あふこつちてあふこつちて
あふこつちてあふこつちて
あふこつちてあふこつちて

狂歌細見記 芍藥亭大人輯

江戸通油町 書林 葛屋重三郎

日蓮大士忌方 經王七字圓

小兒五かんの妙茶 一包代まゝ 葛屋問屋

上編第一冊



信田左衛門政氏家主 鹿嶋徳兵衛

けああふこつちてよのあ
あふこつちてあふこつちてよ
月のあふこつちてよのあ
あふこつちてあふこつちてよ
あふこつちてあふこつちてよ
あふこつちてあふこつちてよ

右元禄年間の印本 松の葉にえの 京五条坂 井筒屋の 於屋

自序

累女得脱の本傳の予が搜奇録に記しつれば更にものほど古き
繪草紙と累解脱打敷といふありこの律次兵衛がはくする傳
奇と寛延三年戯曲に翻案せると又繪草紙と宿綴せりとの
免合此稗史へ彼解脱の打敷と添久紅葉乃錦立田川の流を
もさづり杖ま絹川小せれ入て柳の黒髪とち乱し其のむい声のめを
さうだてて蛇籠の形と其俣小悪竜の姿とあらせし昔語をとり合せ
因果応報の理とつきまゝへべき露むろのよとがせとわさね井筒と名
をくると房徳兵衛が事と附會せりゆゑなり此草紙四歳をりうさ
あつかひ其要路と考へあさねれも書はくさきいとあめて打さね
まるととこみ取出し補綴して耕書堂に授あつてつる

文化五年戊辰四月編成
全 六年巳巳正月発兌

醒醒齋

山東京傳誌





其田の



其田の



二河
白道
音

「白道」の音は
あまのつとをあらわ
すに
ちのつとをあらわ
すに

鱷魚の
変名
カイマン
又云コロウシ

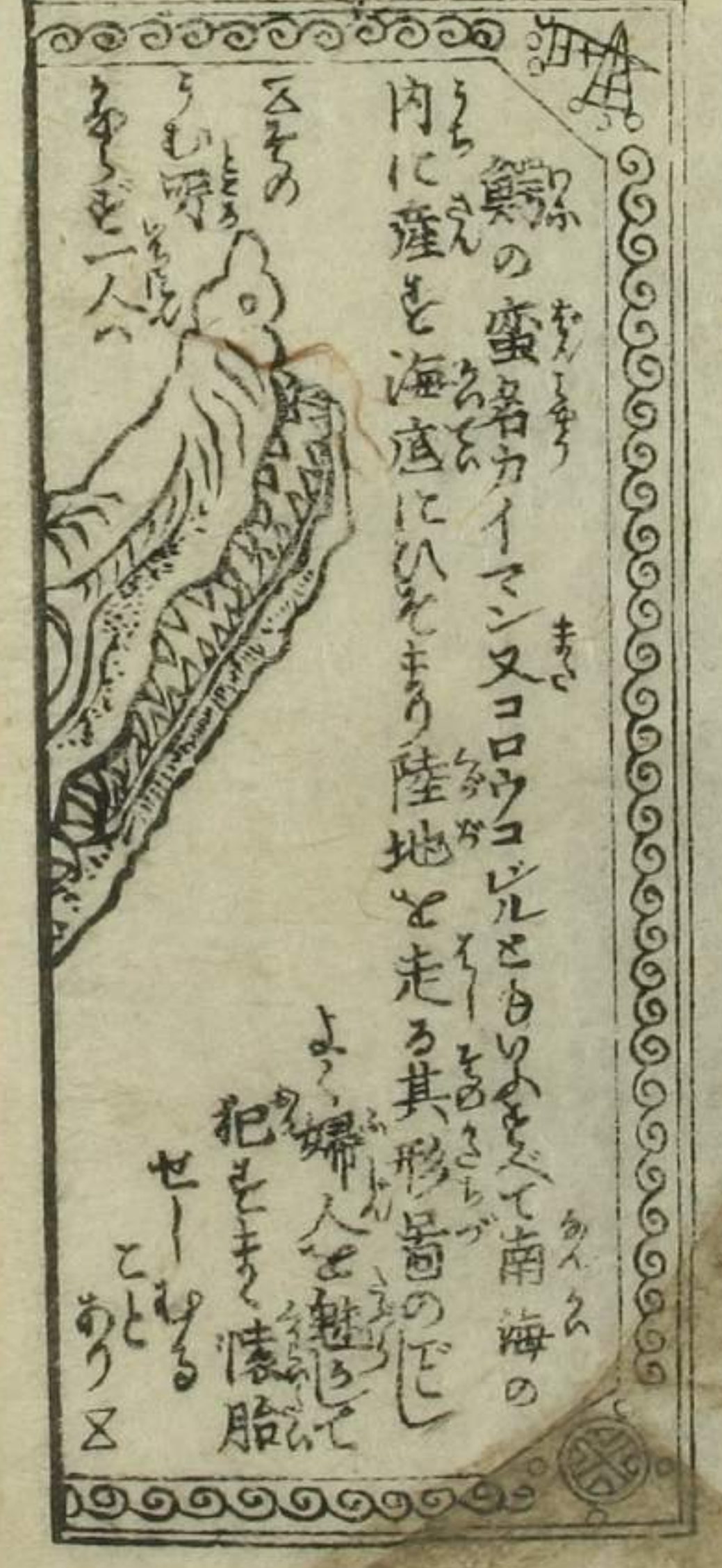


古歌に
「をの甲の鱷一はもおそろーや
あまのつとをあらわ
すに
ちのつとをあらわ
すに

人間一定の鱷魚
和名抄に云鱷魚
蛇場やて水に潜り
人香をた即ち
三才會云鱷魚四足
鱷魚て尾を利齒
あつてはひ竜水を渡す
鱷尾をたてこれとらふ
皆中に断つ其益こと
あまのつとをあらわ
すに
ちのつとをあらわ
すに



いづち判官
尔誰人人誰
尔出尔尔者
又尔尔



鱷の變名カイマン又コロウシとありて南海の
内に産を海底にひをまり陸地を走る其形鱷の如し
よ婦人を執りて
犯すまを懐胎
せり
こと
あり



鬼魂縛



全偈曰
 二七亡人渡奈河千群万隊涉江波
 引路牛頭肩挾棒催行馬頭腰繫又下界

十王經頌曰
 汝去過死山漸近閻魔王
 山路无衣食飢寒苦何忍

白拍子
 養父正直
 庄内
 成仏

報善

鬼魂縛



仏説十王經曰一切衆生臨命終時閻魔法王遣閻魔索
 三名索
 三名索
 三名索

二名索精鬼三名
 名縛能鬼即縛三意至門開
 樹下樹有荆棘宛如鋒刃

累々母子の
 呵責
 あり

報惡

京と都五の条坂の黒井の筒屋の屋と体



可もよまるとさよとておとくえきとて



三之巻

○ちいらの助が... (Main text on the left page, starting with a circled character)

さて信田の主人... (Text block at the top of the illustration)

たまり... (Text block above the illustration)

かして... (Text block below the illustration)





ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを
 ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを
 ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを



ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを
 ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

ちんちんをさうりやうがこちうにせ
 りやうせりのにせあひるこころを

此の物語は、昔の事なり。
 一、ある時、ある村に
 二人の僧あり。一人は
 徳高き僧なり。一人は
 徳下き僧なり。



舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。
 舟に乗りて、河を渡る。

此の物語は、昔の事なり。
 一、ある時、ある村に
 二人の僧あり。一人は
 徳高き僧なり。一人は
 徳下き僧なり。



舟に乗りて、河を渡る。

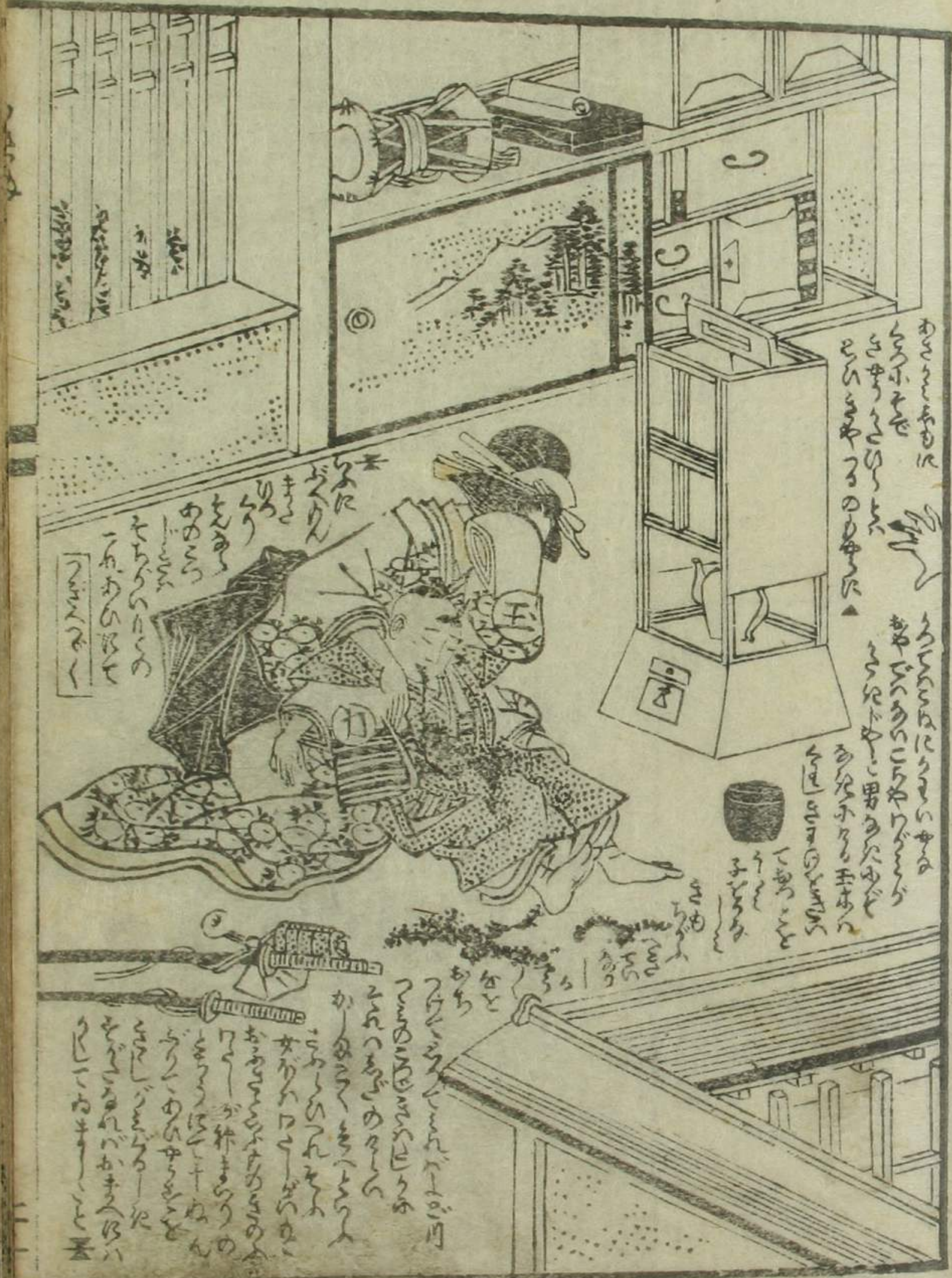
舟に乗りて、河を渡る。



まうこれいとはいさうてちちのせき
 ろりのいさうにひさしちちのいさう
 ちちのいさうにひさしちちのいさう
 まうこれいとはいさうてちちのせき
 ろりのいさうにひさしちちのいさう
 ちちのいさうにひさしちちのいさう
 まうこれいとはいさうてちちのせき
 ろりのいさうにひさしちちのいさう
 ちちのいさうにひさしちちのいさう



▲うらの
 さいちや
 せんあなや
 さしやうて



かぬさうまう
 さいちや
 せんあなや
 さしやうて

▲うらの
 さいちや
 せんあなや
 さしやうて



うへにりうこれえあのゆいひの
うへにりうこれえあのゆいひの
うへにりうこれえあのゆいひの
うへにりうこれえあのゆいひの
うへにりうこれえあのゆいひの

あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ



あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ

あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ
あつたはしきまひ

ちぢり
 どうの
 のまの
 女まの
 うち
 又
 あれ
 あく
 かわら
 うま
 むま

松花... 女まの... ちぢり...
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに
 十二日のあつらひに



あま
 うま
 うま

あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...



あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...
 あまの... うまの...





可憐なるがらう
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね



かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね



まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね



まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね

まのあたりにあるまじりごとくはあつたまに
かきい
まじりひそ
さし
おむね
おむね



下段の注釈

一七



下段の注釈



利養の
 ひまを
 まとの
 めうに
 させ
 せしめ
 する
 べき
 人

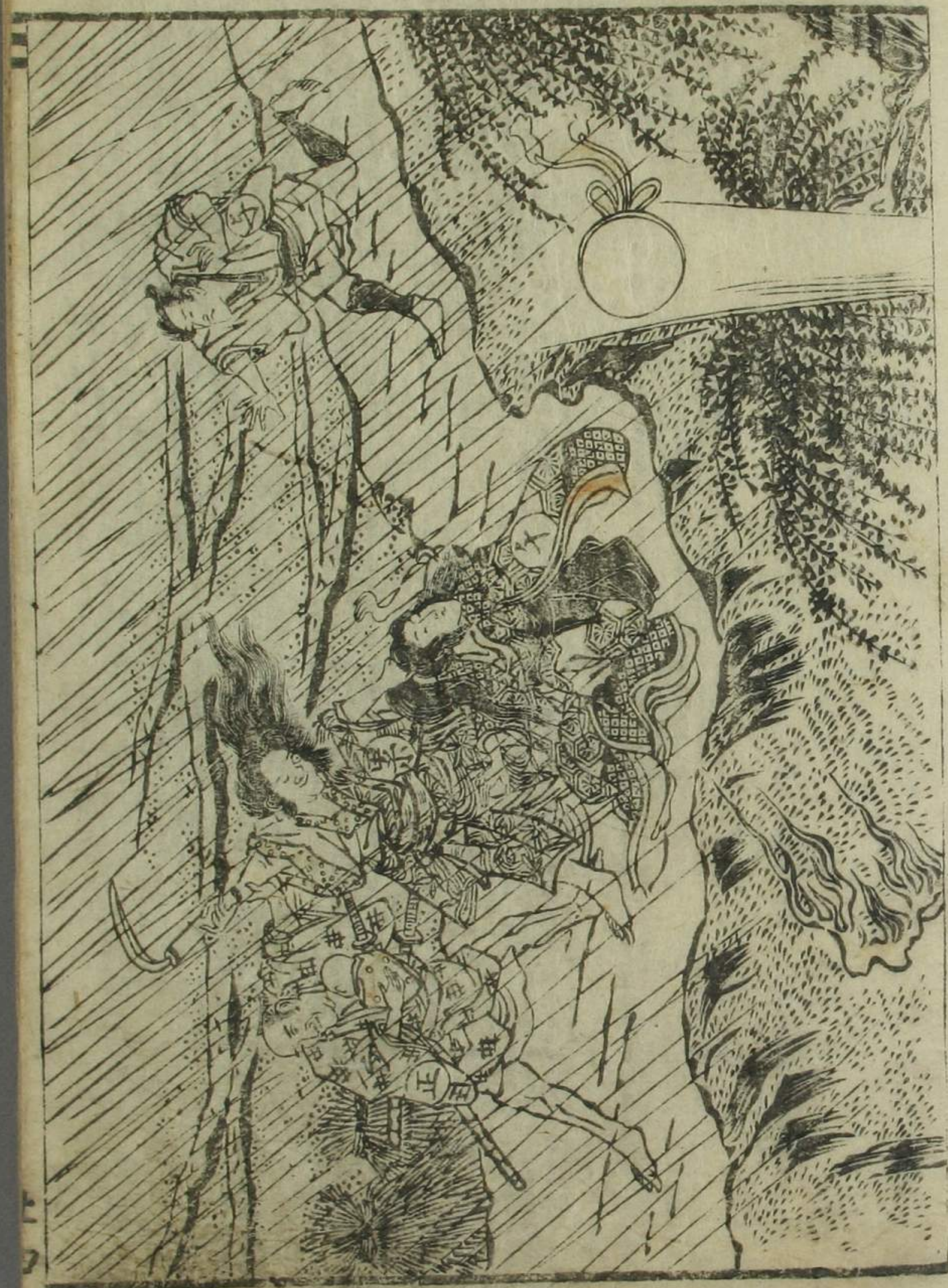


うらやまをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは
 むねをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは
 むねをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは



こゝろをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは
 むねをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは

うらやまをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは
 むねをこらへて
 むねをなぐりし
 まはしをうらやま
 しくしむるは





三

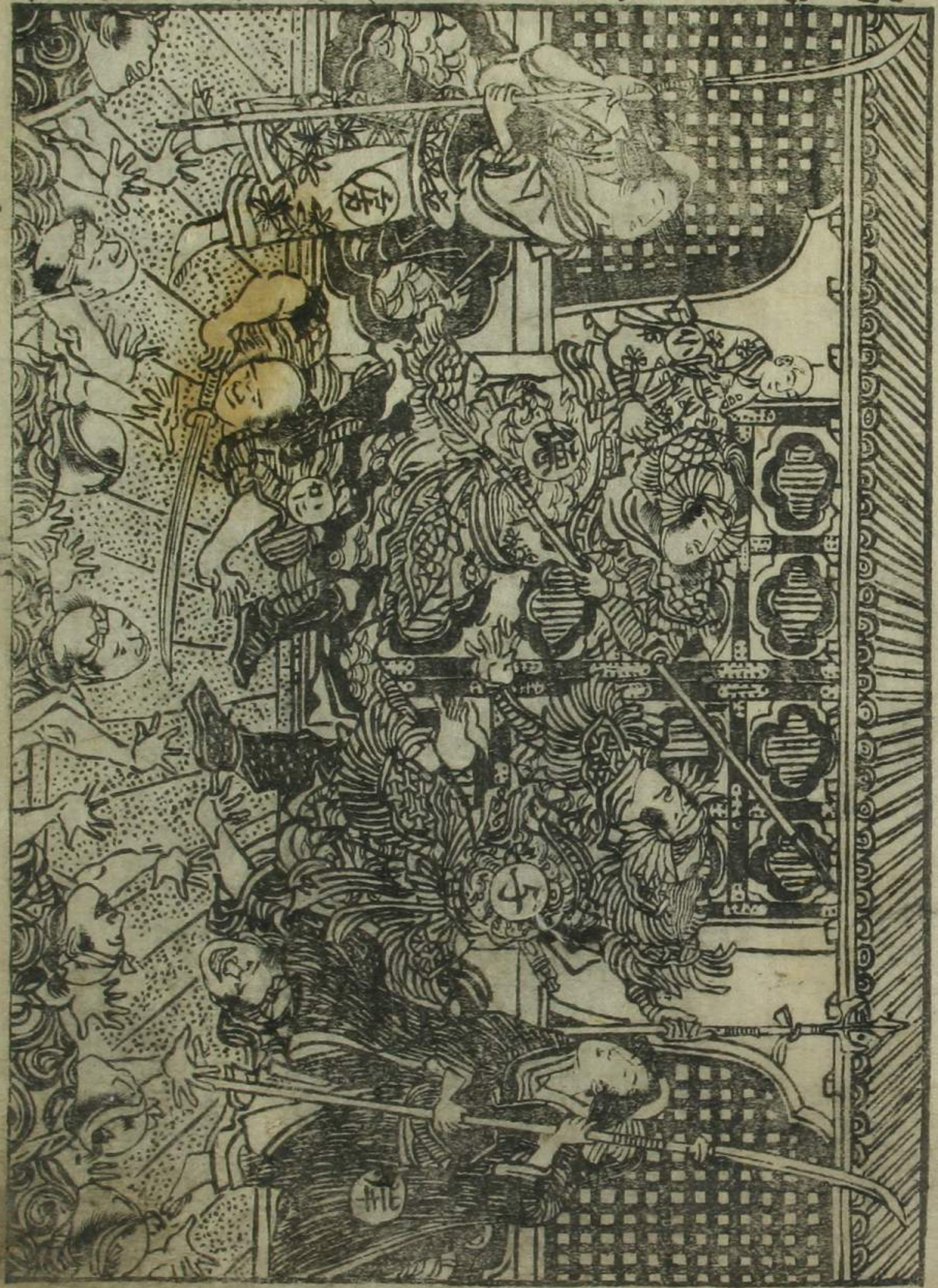
廿日

Handwritten text in Arabic script at the top of the right page, likely a title or introductory text.



Handwritten text on the right margin of the right page.

Handwritten text in Arabic script at the top of the left page, likely a title or introductory text.



Handwritten text on the left margin of the left page.

忠孝

文化六年己酉新春新版繪雙紙目錄

復讎	裏見瀧	全部六冊	歌川豊國画
面鏡	仇討志繪	全部三冊	松下井三和作
復讎	女鉢木	全部三冊	羅綾堂久留九作
新編	月熊坂	全部五冊	市川春翁画
白久屋	古手屋八郎	敵討賽八丈全六冊	時太郎可恨作
德共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	葛飾北斎画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画
徳共	高尾丸	敵討賽八丈全六冊	山東京豊画

豊國画 山東京傳作



